

福田雅章名誉教授 業績目録 (抄)

- 1969年 「安楽死に対する医師の態度—医師に対する郵送式アンケートをもとにして」 一橋論叢61(6)
「カレンズ原則—刑事責任能力ルールの一断面」 一橋論叢62(4)
- 1971年 「安楽死の法的許容性」等 太田典礼(編著)『安楽死』クリエイト社
- 1974年 「行刑問題に対する裁判所の関与—アメリカにおけるハンズ・オフ・ドクトリン(不干涉主義)の崩壊」 一橋論叢71(1)
「安楽死に対する医師の態度(特集 安楽死)」現代のエスプリ83
「アメリカ行刑法における懲罰手続とデュープロセス(1)」阪大法学93
- 1975年 「法律家の立場から—地域医療システムの問題点(特集 地域医療システム—1980年代のために)」日本臨床33(8)
「アメリカ行刑法における懲罰手続とデュープロセス(2)」阪大法学95
「業務上過失傷害罪と業務の意義」法学セミナー増刊 セミナー法學全集16『刑法Ⅱ 各論』
“A Survey Research of Doctors’ Attitudes toward Euthanasia in Boston and in Tokyo” *Osaka University Law Review* 22
- 1976年 「パロウル取消手続に関するモリッセイ—ギャグノン判決について」大阪大学教養部研究集録 人文・社会科学24
「安楽死と医療の倫理」書斎の窓254
- 1977年 「生と死の権利」大阪大学教養部総合講座『生と死』
- 1978年 「ニコラス・N・キットリー『生きる権利と死ぬ権利—いかに決定を下すかの問題』」金澤文雄(編)「ドイツにおける最近の自殺・安楽死論議」判例タイムズ353
「受刑者懲罰手続に関するウォルフ対マクドネル判決について」大阪大学教養部研究集録 人文・社会科学26
「条例と法律との関係」別冊ジュリスト57『刑法判例百選Ⅰ 総論』
「第12章 刑法の基本常識」榎原猛(編)『法の基本常識』法律文化社
「行刑とデュー・プロセス」別冊ジュリスト59『英米判例百選Ⅰ 公法』

「法律学とコンピューターの関わり合い」大阪大学大型計算機センター
ニュース8月号

「大阪地裁安楽死事件解題」阪大法学108

1979年 「第4章V 安楽死」 荻立明・中井美雄（編）『医療過誤法入門』青林書
院新社

「受刑者移送に関してデュープロセスを否定したミーチャム対ファーノ
判決について—新しい『ハンズ・オフ』ドクトリンの出現」大阪大
学教養部研究集録 人文・社会科学27

翻訳「受刑者の法的地位に関する ABA 基準（仮案）」 阪大法学112

翻訳 S.Kranz 他（著）「受刑者の権利・義務に関する模範規則（1）
—ボストン大学刑事司法センター案」阪大法学112

1980年 「Meachum v. Fano: 427 U. S. 215, 96 S. Ct. 2532 (1976) —一定の事実の
発生を要件としてのみ受刑者の移送（transfer）を許容し得る旨の州法
が存在しない場合には、それがいかに大きな不利益を受刑者にもたら
すものであっても、当該移送には合衆国憲法第14修正の適正手続条項
の保護はおよばない—新しい“hands-off” doctrine の出現」アメリカ法
1979(2)

「受刑者の法的地位と『要綱案』（特集 監獄法の改正）」ジュリスト712

「逸脱視点の転換—ラベリング論」関西非行問題研究会（編）『非行克服
の現場と理論』三和書房

「第3編第4章 刑罰の執行」「同第5章 刑罰の消滅」「同第6章 保
安処分」福田平・大塚仁（編著）『講義・刑法総論』青林書院新社
「監獄法改正要綱案批判—既決（特集 監獄法『改正』）」法と民主主義
149

「在監者の不服申立権」重松一義（編）『監獄法演習』新有堂

1981年 「被勾留者の権利に関するベル対ウルフィッシュ判決について」大阪大
学教養部研究集録 人文・社会科学29

「刑事政策（特集 1981年学界回顧）」法律時報53(13)

1982年 「監獄法『改正』の検討⁽¹³⁾ 図書の閲覧・ニュースの供与」法律時報54

(3)

「処遇権の基礎(1) (特集 刑罰権と処遇権の基礎)」刑法雑誌25(1)

「アメリカ合衆国連邦刑法典改正案における訴訟遂行能力<最近の外国
刑法事情(4)>」警察研究53(10)

「刑事政策 (特集 1982年学界回顧)」法律時報54(12)

1983年 「犯罪の原因と対策・保安処分 (日本)」刑法理論研究会 (編)『現代刑
法学原論 [総論]』三省堂

「受刑者の法的地位と監獄法改正(1) (特集 刑事・留置施設両法案の検
討)」法律時報55(2)

「アメリカの医療過誤に関する刑事判例」中山研一・泉正夫 (編著)『医
療事故の刑事判例』成文堂

「安楽死をめぐる二つの論点—安楽死はタブーか (特集 生命・医療・
法)」自由と正義34(7)

「法における生命の尊厳」三輪正ほか (著)『いのちを考える：大阪大学
開放講座より』メディカル葵出版

「刑事政策 (特集 1983年学界回顧)」法律時報55(12)

1984年 「禁錮の合憲性」別冊ジュリスト82『刑法判例百選Ⅰ 総論 [第2版]』

「第6章 刑法」榎原猛 (編)『基礎法学』法律文化社

「少年保護事件における“再審” — 柏の少女殺し事件」ジュリスト815
『臨時増刊・昭和58年度重要判例解説』

「犯罪前歴者に対する職業制限を克服するための法理—アメリカ法の展
望に関する覚書」法学研究 (一橋大学) 14

「第2編第5章 違法性阻却」大野真義・墨谷葵 (編著)『要説刑法総
論』嵯峨野書院

1985年 「受刑者の法的地位」澤登俊雄ほか (編著)『刑事政策』蒼林社

1986年 「少年法の拡散現象と少年の人権 (特集 少年の人権と健全育成)」刑法
雑誌27(1)

「刑法42条1項の自首が適用された事例」ジュリスト862『臨時増刊・昭
和60年度重要判例解説』

- 1987年 「横領罪」「背任罪」「流職罪」大野真義・墨谷葵（編）『要説刑法各論』
嵯峨野書院
「第2編第2章 犯罪の原因と対策」刑法理論研究会『現代刑法学原論
〔総論〕改訂版』三省堂
「被告人の予防拘禁を合憲とするサラノ判決をめぐって」一橋論叢98
(5)
- 1988年 「アメリカ対立する行刑イデオロギー—外国の監獄法制と被拘禁者の
人権」法学セミナー増刊 総合特集シリーズ41『監獄の現在』
- 1989年 「おわりに—一人権の国際性とわが国の被拘禁者処遇」刑事立法研究会
「国際人権法と代用監獄—NGO 報告書『警察留置所での拘禁—1989年
2月パーカー・ジョデル報告書』を読む」國學院法学27(2)
- 1990年 「刑事法における強制の根拠としてのパターンリズム—ミルの『自由原
理』に内在するパターンリズム」一橋論叢103(1)
「死刑を廃止できない日本社会の論理—死刑制度廃止にむけて」法学セ
ミナー428
座談会「ワークショップ『環境問題』を終えて（特集 ワークショッ
プ『環境問題』）」一橋論叢104(4)
「日本社会の論理と公害という人工砂漠のアイロニー—環境問題解決へ
向けての論理（特集 ワークショップ『環境問題』）」一橋論叢104(4)
「アボリショニストの視点—フルスマン記念論文集の紹介(1)」刑法読書
会『〔学界展望〕最近の外国刑法事情94』警察研究61(10)
「女子高校生監禁殺害事件—なぜこんな“残虐な行為”をしたのか（特
集 少年司法の最前線）」法学セミナー431
“A Critical Analysis of Juvenile Justice System in Japan : Debasement of
the Juvenile Law to Attain Unarticulated Social and Economic Purposes”
Hitotsubashi Journal of Law and Politics 18
- 1991年 「国際人権法からみた刑事施設法案の受刑者処遇原則（特集 拘禁二法
と国際基準）」法律時報63(5)
「刑務所見学法」法学セミナー増刊『法学入門1991年』

「国際人権法における被疑者取調べ」井戸田侃ほか（編）『総合研究・被疑者取調べ』日本評論社

「受刑者の権利」宮崎繁樹・五十嵐二葉・福田雅章（編著）『国際人権基準による刑事手続ハンドブック』青峰社

座談会「少年非行と少年法の担い手—あるべき少年司法を求めて（特集 少年非行と少年法）」（荒木伸怡・斉藤豊治・多田元・津田玄児・寺尾史子・福田雅章・吉峯康博・若穂井透）法律時報63(2)

1992年 座談会「監獄法改正の必要性と課題」（五十嵐二葉・澤登俊雄・所一彦・福田雅章）法律時報64(1)

「〔法律時評〕『暴力団対策法』の問題点と危険性」法律時報64(2)

「強盗罪の要件たる暴行脅迫(1)」別冊ジュリスト117『刑法判例百選Ⅱ 各論〔第3版〕』

「報告Ⅱ 受刑者の処遇（特集 刑事拘禁法の諸問題）」刑法雑誌32(3)

「綾瀬母子殺し冤罪事件2 少年に対する保護・救済装置は機能したか（少年事件研究会レポート5）」（福田雅章・佐々木光明）法律時報64(10)

翻訳 E. フェルハーレン「講演 教育と子どもの権利」季刊教育法91

1993年 「女子高校生監禁死亡事件（少年事件研究会レポート9）」（福田雅章・黒岩哲彦）法律時報65(1)

対談「日本はなぜ死刑を手ばなせないか—戦争裁判と戦後社会文化構造から考える」（福田雅章・内海愛子）インパクション80

「刑事手続と国政調査権—刑事法学の立場から（特集 構造的汚職と国政調査権）」法律時報65(10)

座談会「監獄法改正でいま何が求められているのか（上）」（鴨下守孝・古瀬駿介・澤登俊雄・福田雅章・村井敏邦）法学セミナー465

座談会「監獄法改正でいま何が求められているのか（下）」（鴨下守孝・古瀬駿介・澤登俊雄・福田雅章・村井敏邦）法学セミナー466

「受刑者の法的地位」澤登俊雄ほか（編著）『新・刑事政策』日本評論社
座談会「監獄改善の道をさぐる（上）—一元受刑者と考える監獄法改正問題」（荒井彰・A・海渡雄一・新倉修・赤池一将・福田雅章）法学セ

ミナー468

- 1994年 座談会「監獄改善の道をさぐる（中）一元受刑者と考える監獄法改正問題」（荒井彰・A・海渡雄一・新倉修・赤池一将・福田雅章）法学セミナー469

「IV カナダ」澤登俊雄（編著）『世界諸国の少年法制』成文堂

「安楽死」萌立明・中井美雄（編）『医療過誤法』青林書院

- 座談会「監獄改善の道をさぐる（下）一元受刑者と考える監獄法改正問題」（荒井彰・A・海渡雄一・新倉修・赤池一将・福田雅章）法学セミナー471

『講演録 死刑執行 法務大臣の義務か—死刑執行の停止を求めて』自由人権協会

“The U.N. Convention on the rights of the Child and the Situation of Children”『主権と自由の現代的課題—杉原泰雄教授退官記念論文集』勁草書房

「わが国の社会文化構造と犯罪対応策」福田雅章ほか（編）『福田平・大塚仁 博士古稀祝賀 刑事法学の総合的検討（下）』有斐閣

翻訳 Eugene Verhellen（著）「教育と子どもの権利条約（特集 現代社会と子どもの権利）」一橋論叢112(4)

「わが国の社会文化構造と子どもの人権（特集 現代社会と子どもの権利）」一橋論叢112(4)

- 1995年 「法務大臣に死刑執行の義務はあるか—死刑執行の停止に関する予備調査を踏まえて（特集 死刑制度の検討）」刑法雑誌35(1)

「『子どもの権利条約』の基本原則と少年司法」国際人権6

翻訳 Fiona Blyth-Kubota（著）「子どもの権利条約と国連の機能—現在及び将来における委員会の役割」国際人権6

- 1996年 「戦後日本を映し出すオウム問題」青年法律家303

「安楽死（東海大学安楽死事件）」別冊ジュリスト140『医療過誤判例百選 [第2版]』

- 1997年 「強盗罪の要件たる暴行脅迫(1)」別冊ジュリスト143『刑法判例百選Ⅱ

各論〔第4版〕

「人権革命としての『子どもの権利条約』の実践運動—『市民・NGO 報告書をつくる会』の活動とその意義（特集 子ども権利条約・その後の展開）」教育47(6)

「豊かな国、日本社会における『子ども期の喪失』—『子どもの権利条約』報告審査制度と市民・NGO 活動の意義（特集 子ども権利をめぐる現状）」法律時報69(8)

鼎談「お上は覗きが大好き!?!—盗聴捜査が招く一億総容疑者化時代（特集 盗聴—しのびよるテクノ・ファシズム）」（福田雅章・福島瑞穂・小倉利丸）インパクション104

「はくだって『居場所』が欲しい—子どもたちの命を賭しての意見表明」創価学会婦人平和委員会（編）福田雅章（監修）『子どもの人権を考える』第三文明社

「『子ども期の喪失』を克服するための法理—『子どもの権利条約 市民・NGO 報告書』の作成を終えて（特集 日本と世界の教育問題・教育改革）」一橋論叢118(4)

「『発刊にあたって』子どもの権利条約 市民・NGO 報告書をつくる会（編）『“豊かな国” 日本社会における子ども期の喪失—国連子どもの権利委員会への市民・NGO 報告書』花伝社

1998年 「『居場所』を奪う破防法の適用を許すな!」オウム破防法弁護団（編著）『オウム「破防法」事件の記録—解散請求から棄却決定まで』社会思想社

「国際ボランティアのこころ」福田雅章ほか（著）『国際ボランティア（日本を見る目・世界を見る目：国際理解の本；6）』岩崎書店

「立花隆の研究—歪み始めた“知の巨人”」宝石7月号

対談「『居場所』のない管理社会への告発」（蒲田慧・福田雅章）第三文明7月号

「虐待事実と一事不再理効」別冊ジュリスト147『少年法判例百選』

「国連にしかられた日本政府（実践『子どもの権利条約』）」女性&運動

- 1999年 「子どもの人権を排除してきたこの国の教育制度」第三文明1月号
「子どもの意見を聞きなさい—国連委員カープさんのメッセージ」灯台
462
「国連『子どもの権利委員会』からの『勧告』を読み解く(1) —『子どもの
権利条約 市民・NGO 報告書をつくる会』の実践を踏まえて」法学
研究(一橋大学) 32
「河上亮一『学校崩壊』のデタラメ—ベストセラーの著者を徹底批判す
る」宝石6月号
「『子どもの権利条約』を歪める危ない学者—波多野里望は国家人権委員
としてふさわしいか(特集 悩める子どもたち)」宝石7月号
「小林よしのりのあきれた戦争論—危ないベストセラーを斬る」宝石8
月号
「『居場所』を奪われた子どもたち」生活教育9月号
「いわれないオウム信徒の『非国民化』—その裏に隠された翼賛体制
の政治目的」創29(10)
「おむつ、皿洗いも父親の役割—愛する奥さんの子育てを少しでも助け
るために」灯台470
「無差別大量殺人規制法は権力の陰険さの象徴」週刊金曜日290
「権力がばらまく『サリン』—“オウム対策法”は第2の破防法だ!」
週刊金曜日291
「問われた先進国日本の『子ども期の喪失』—人間関係を形成する権利
としての意見表明権」子どもの権利を守る国連 NGO・DCI 日本支部
(編)
『子ども期の回復—子どもの“ことば”をうばわない関係を求めて』花
伝社
『子どもの権利を考える—一橋大学大学院法学研究科 国際シンポジウ
ム報告書』一橋大学大学院法学研究科
2000年 「豊かな国日本における子ども期の喪失から回復へ」新英語教育369

「子どもの人権と少年法改正（特集 少年司法改革の諸問題）」刑法雑誌
39(3)

「いわれのない『オウム信徒の非国民化』—その裏に隠された翼賛体制
の政治目的」SYZGY 特別号日本語版『オウム真理教と人権』

「『少年法改正』で事件は解決しない」週刊金曜日317

「戦後大人社会への反乱としての少年非行」働く人509

2001年 「少年法改正を憤る！」働く人515

鼎談「死刑の時代へどう踏み込んできたか—1999年を考える」（福田雅
章・海渡雄一・笹原恵）『終身刑を考える—年報・死刑廃止2000 -
2001』インパクト出版会

「あらためて子どもの権利の本質を問う—『川崎市子どもの権利条例』
は、子どもの権利の本質を踏まえているか」教育51(9)

「子どもの権利の本質とはなにか—自己決定権と意見表明権のはざま
で」子どものしあわせ609

2002年 『日本の社会文化構造と人権—“仕組まれた自由”のなかでの安楽死・
死刑・受刑者・少年法・オウム・子ども問題』明石書店

「『子どもの権利条約』における発達と指導（特集 学童保育における指
導を考える）」学童保育研究3